昭和十年初漁期に於ける厚岸沖時不知の漁況と魚價^{*})

岡 田 光 世

(水 産 講 習 所)

Catch and Price of *Oncorhynchus keta* (WALB.) off Akkeshi, Hokkaidô,
Early in the Fishing Season in 1935.

Mituyo OKADA

SYNOPSIS

The daily variations in catch and in price were analysed in relations to date and to number of fishing boats, of which the latter was proved to be the more important cause for the variations in question

地方的な漁業に於いて日々の魚價が漁況等の影響で變動する一例として、北海道水産試験場調査⁽¹⁾に基き、昭和十年厚岸沖の時不知の初漁期に於ける價格を調べた。毎日の單價・總漁獲尾數・出漁船數の常用對數は第 1 圖に示す如く、四月十七日の初漁日から五月十八日に到る間は、何れも略々直線的に變化する傾向がある。此の間を假に初漁期と名づけた。同圖に於ては更に 3 者の小變動にも稍々著しい相關が認められる。

そこで上記 3 種の對數及び日數を夫々變量 1, 2, 3, 4 とし、相互の相關係數及び偏相關係數を計算した(第 1 表)。相關係數は何れもその値が大きい、偏相關係數は必ずしも大きくない。此の結果から、漁期の進むことは單價の漸減や漁獲の漸増の有力な原因ではなく、漁期の進むに従ひ出漁船數の増加する爲の間接な影響が著しいことが分る。尙資料の與へられてない他の要因の影響や餘效の影響もあらうが、今は明かでない。

第 1 圖 上より順次 (1) 單價(下向に取る)、(2) 漁獲尾數、(3) 漁船數の對數、(4) 日數。

第 1 表

1. 單價の對數、2. 總漁獲尾數の對數、3. 出漁船數の對數、4. 日數。

項 目	相 關 係 數	項 目	相 關 係 數	項 目	相 關 係 數
r_{12}	-0.8273 ± 0.0418	r_{13}	-0.8797 ± 0.0300	r_{23}	0.8806 ± 0.0297
$r_{12 \cdot 3}$	-0.2334 ± 0.1251	$r_{13 \cdot 2}$	-0.5679 ± 0.0896	$r_{23 \cdot 1}$	0.5720 ± 0.0890
$r_{12 \cdot 4}$	-0.5313 ± 0.0949	$r_{13 \cdot 4}$	-0.6443 ± 0.1268	$r_{23 \cdot 4}$	0.5998 ± 0.0847
$r_{12 \cdot 34}$	-0.5222 ± 0.0962	$r_{13 \cdot 24}$	-0.4804 ± 0.1018	$r_{23 \cdot 14}$	0.5926 ± 0.0858
r_{14}	-0.7832 ± 0.0511	r_{24}	0.8075 ± 0.0461	r_{34}	0.8958 ± 0.0261
$r_{14 \cdot 2}$	-0.3476 ± 0.1163	$r_{24 \cdot 1}$	0.4566 ± 0.1047	$r_{34 \cdot 1}$	0.6995 ± 0.0676
$r_{14 \cdot 3}$	0.0227 ± 0.1322	$r_{24 \cdot 3}$	0.0892 ± 0.1312	$r_{34 \cdot 2}$	0.6609 ± 0.0745
$r_{14 \cdot 23}$	0.0448 ± 0.1320	$r_{24 \cdot 13}$	0.0972 ± 0.1310	$r_{34 \cdot 12}$	0.6006 ± 0.0846

日數の分布は勿論正規分布に従はないが假に常法に従つて相關係數の確率誤差を計算した。

^{*}) 水産講習所専攻科統計學演習例題。 (1) 北海道水試事業旬報 (281), 1935, 778~781.